

指導の手引き 12. スポーツ(1)

archery	最初の ar- にアクセント。	アーチェリー
英語らしい音を出すコツ	語尾の ry は l にならないよう、舌先が歯茎に触れないように注意。	
文法的な注意事項	競技名は数えないので、a を付けることはない。	
文化的な情報、応用表現など	個人競技なので do を使う。Do you do archery? 「アーチェリーをするのですか」	

badminton	最初の bad にアクセント。	バドミントン
英語らしい音を出すコツ	bad-min-ton の3音節になるように発音する。dのあとにoが入って「ド」にならないよう注意。最初の母音の a は、bag や hat の a と同じ、「エ」と「ア」の中間の音。語尾の ton は母音の o をはっきり言わず t と n だけのような感じで。	
文法的な注意事項	競技名は数えないので、a を付けることはない。	
文化的な情報、応用表現など	コート (court) の中で相手があつてする競技は、play を使う。 Do you want to play badminton? 「バドミントンしたいの?」	

baseball	最初の base にアクセント。	野球
英語らしい音を出すコツ	「ベース」でなく「ベイス」。語尾の l は、l で終わるほかの語と同様、舌の先を上歯の裏にしっかり押しつけたまま、暗い「ウ」のような音になる。「ベイスボーウ」のように聞こえる。	
文法的な注意事項	競技名は数えないので、a を付けることはない。	
文化的な情報、応用表現など	野球などの球技は play を使う。 野球はコートではなく field で行う。専用球場は ballpark と呼ぶ。	

basketball	最初の ba- にアクセント。	バスケットボール
英語らしい音を出すコツ	最初の母音の a は、bag や bat の a と同じ、「エ」と「ア」の中間の音。ベアスキトボーウのように聞こえる。	
文法的な注意事項	競技名は数えないので、a を付けることはない。	
文化的な情報、応用表現など	バスケットボールもほかの球技と同様に play を使う。コート (court) で行う。	

boxing	最初の box- にアクセント。	ボクシング
英語らしい音を出すコツ	o は、「ア」の口をしたまま「オ」と発音。また、「シング」でなく、「スィング」のように、語尾の ing は鼻に抜ける音を意識する。	
文法的な注意事項	競技名は数えないので、a を付けることはない。	
文化的な情報、応用表現など	格闘技は play でなく、do を使う。	

canoeing	-noe- にアクセント。	カヌー
英語らしい音を出すコツ	最初の「カ」は軽く、次の noe は noodle と同じ、唇を丸く突き出す。語尾の ing は鼻に抜ける音を意識する。	
文法的な注意事項	競技名は数えないので、a を付けることはない。	
文化的な情報、応用表現など	ほかの -ing で終わる競技名と同様、元は canoe という動詞。だから「カヌーできる?」は Can you canoe? だよ。	

climbing	最初の i にアクセント。	クライミング
英語らしい音を出すコツ	c と l の間に母音はないことに注意。また、l の音は、日本語の「る」のように舌先を弾くのではなく、舌先を上歯の裏にしっかり押しつけて発音する。語尾の -ing は鼻に抜ける音。	
文法的な注意事項	競技名は数えないので、a を付けることはない。	
文化的な情報、応用表現など	ほかの -ing で終わる競技名と同様、元は climb という動詞。「クライム」と発音する。だから「登山するの?」は Do you climb? だよ。	

cycling	最初の cy- にアクセント。	サイクリング、自転車競技
英語らしい音を出すコツ	2つ目の c と l の間に母音はないことに注意。また、l の音は、日本語の「る」のように舌先を弾くのではなく、舌先を上歯の裏にしっかり押しつけて発音する。語尾の -ing は鼻に抜ける音。	
文法的な注意事項	競技名は数えないので、a を付けることはない。	
文化的な情報、応用表現など	オリンピックの自転車競技やツール・ド・フランスのようなレースも、休日に自転車で遠出する気軽なサイクリングも、英語ではすべて cycling である。	